

April 22, 2010

JAWIC

# Seattle News

## 製材価格続伸、カナダでは輸出税引き下げへ

北米の針葉樹製材価格は今年に入って上昇を続けており、ランダムレングス社の総合価格を見ると4月16日には353ドル/1000BMと年頭に比べ約40%高い水準に達している(図1)。さらに上昇カーブを辿るのであるだろうか。今回の価格上昇の主因は、米国およびカナダの製材企業による大幅な減産(図2)がようやく効果を現したということであろう。これまで流通の各段階で在庫が極めて薄くなっていたところに春先の住宅建築シーズンを迎え、慌てて手当てに入ったための急上昇と考えられる。中国等への輸出向けが伸びていることも相場上昇の一因といわれている。

米加針葉樹協定の規定では、ランダムレングス総合価格が315ドル以下の場合にはオプションA採用州(BCおよびアルバータ)は輸出税15%、オプションB採用州は輸出税5%+数量規制となっている。2006年秋の協定発効以来、製材価格は低迷し今年の3月末までは315ドルを超えることがなく、カナダ各州の企業にとって厳しい足枷となっていた。毎月始めの21日前にそれまで4週間の平均総合価格が316ドル以上335ドル以下であれば、オプションAでは輸出税が10%に、オプションBでは輸出3%+より緩やかな数量規制となるが、5月1日からはこのレベルになることが確実である。さらに、現在の価格水準が続けば6月はオプションAは輸出税5%、オプションBは2.5%+より緩やかな数量規制となる。このため、カナダ企業は減産体制を緩和し生産量を増大させてくるものと予想される。不採算に苦しんでいた米国の企業も増産に踏み切ってこよう。WWPAによれば、米国西部の針葉樹製材生産量は4月17日時点で今年の累計は前年同期を12%上回っている。米国の木材需要が伸び、この供給増を吸収できればよいが、そうでなければこれ以上の価格上昇は見込めず、1-2ヵ月もすればやや低下すると考えられる。

3月の米国住宅着工は年率62.6万戸と前月比+1.6%、前年同月比+20.2%と伸び、建築許可数も年率68.5万戸(前月比7.5%、前年同月比34.1%)と回復基調を窺わせるものであった。3月の中古住宅販売数も年率535万戸(前月比+6.8%、前年同月比16.1%)と伸びた。住宅減税駆け込み購入で4月もかなりの増加が見込まれている。しかし一方では3月の

フォークロージャー手続開始数は過去 5 年間で最高を記録し（リアルティートラック社集計）、これが潜在的な販売在庫となり、また住宅販売価格の引下げ要因となっている。

図 1：ランダムレングス針葉樹製材総合価格（ドル/1000BM）

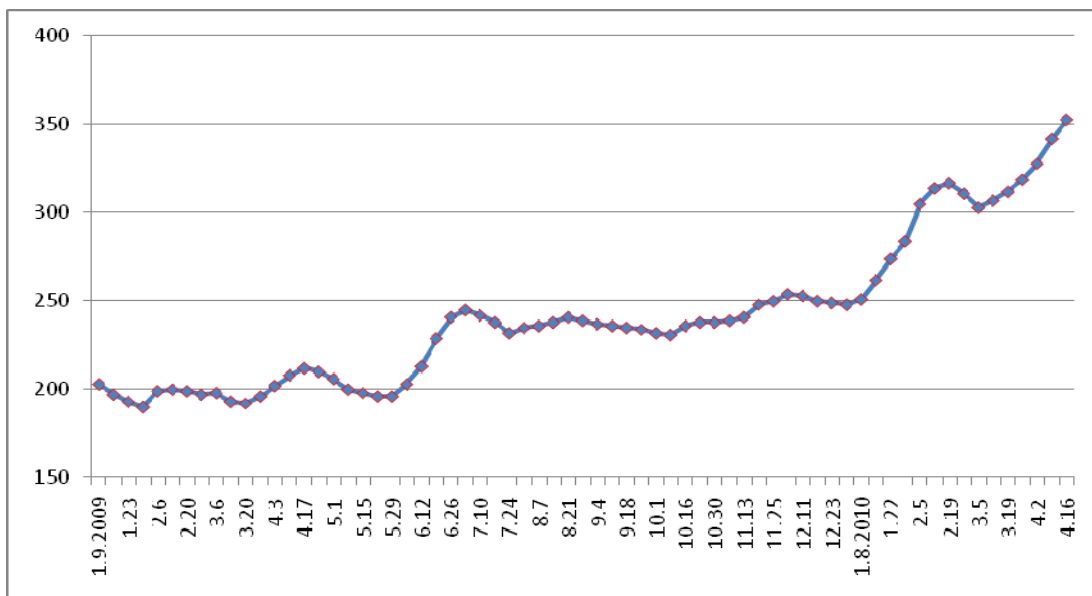
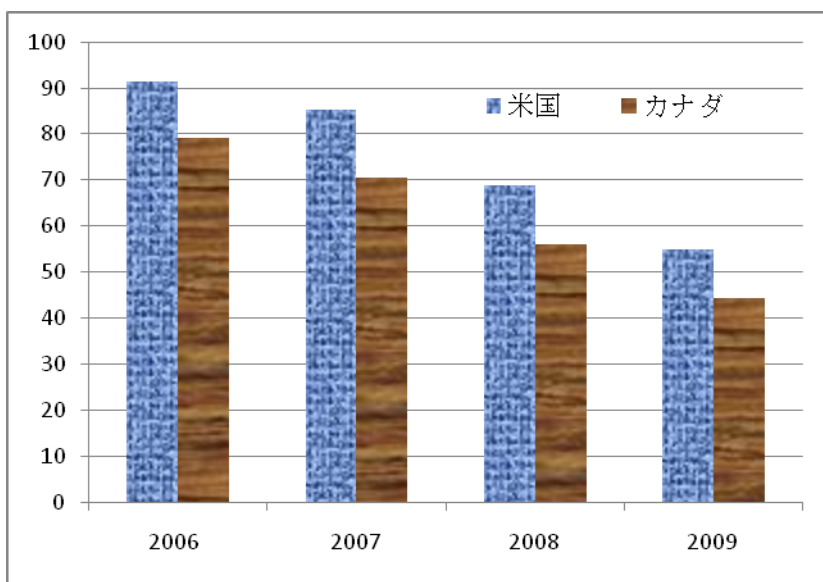


図 2：米国およびカナダの針葉樹製材生産量（100 万m3）



資料：WWPA および Statistics Canada